

ブレーキコントロール/VSCシステム / 作業サポート

ヨーレートセンサ&Gセンサ0点取得およびシステム情報記憶(TaSCAN)

■ 注意 ■

- ヨーレートセンサ(Gセンサを内蔵)の交換を行った場合は、ヨーレートセンサ&Gセンサ0点取得を行う。
- スキッドコントロールコンピュータASSYの交換を行った場合は、ヨーレートセンサ&Gセンサ0点取得およびシステム情報の記憶作業を行う。
- システム情報は1度記憶されるとデータが消去されるまで取り直しは行われなため、システム情報がすでに記憶されている場合は、システム情報記憶消去後に記憶させる。
- 0点は1度記憶されるとデータが消去されるまで取り直しは行われなため、ヨーレートセンサを交換した場合は、0点消去後に0点取得を行う。
- 0点取得は必ず平坦な場所(勾配率1%以内)で行い、実施中は車両を揺らしたり、ドアの開け閉め等を行わない。また、アイドリング振動を避けるため、エンジンを始動しない。

a. ヨーレート&Gセンサの0点記憶消去およびシステム情報消去

■ 注意 ■

下記作業を行うと、ヨーレート&Gセンサの0点およびシステム情報が同時に消去される。

- i. IG OFFにして、DLC3にSST(TaSCAN)を接続する。

SST

09991-70200

- ii. シフトレバーをPポジションにする。

- iii. IG ONにして、SST(TaSCAN)の画面表示に従って“作業サポート”→“ABS・VSC・ECB”→“バックアップメモリー消去”を選択、実行する。このとき、マルチインフォメーションディスプレイに“VSCシステムチェック”が表示されることを確認する。

- iv. IG OFFにする。

■ 注意 ■

バックアップメモリー消去を実行するとスキッドコントロールコンピュータ内に記憶されているシステム情報も消去される為C1203を検出し、ABSウォーニングランプ、スリップインジケータランプが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“VSCシステムチェック”が表示される。この状態で走行すると、Gセンサ0点未補正を記憶する。

b. ヨーレート&Gセンサの0点取得およびシステム情報記憶

■ 注意 ■

下記作業を行うと、ヨーレート&Gセンサの0点取得およびシステム情報記憶が同時に行われる。

- i. IG OFFにして、DLC3にSST(TaSCAN)を接続する。

SST

09991-70200

- ii. シフトレバーがPポジションの状態にIG ONにして、約3秒間待ち、インジケータランプのインisialチェックが終了することを確認する。

- iii. SST(TaSCAN)の画面表示を“診断”→“システム診断/ シャシー”→“システム名/ABS・VSC”→“モード移行”の順に選択し、テストモードに切り替える。

- iv. テストモードに移行してから約2秒間、車両静止状態を保ち、マルチインフォメーションディスプレイに“VSC

テストモード”が表示されることを確認する。

■ 注意 ■

- 0点が消去された状態で走行すると、ヨーレートセンサおよびGセンサの0点未補正異常コードを記憶する。
- 0点未補正異常コードもしくはエンジンECU通信線異常コード(C1203)を記憶した場合、0点およびシステム情報記憶消去から再度実施する。
- テストモードへ移行するとダイアグノーシスコードC1203は消去されるがテストモードコードC1270が検出される。システム情報記憶が取得されるとテストモードコードC1270は消去される。

■ 参考 ■

0点取得終了後、メータ内の表示はテストモード表示に移行する。

- v. SST(TaSCAN)の画面表示を“診断”→“システム診断/ シャシー”→“システム名/ABS・VSC”→“モード移行”の順に選択し、通常モードに切り替える。

ヨーレートセンサ&Gセンサ0点取得およびシステム情報記憶(DLC3短絡)

■ 注意 ■

- ヨーレートセンサ(Gセンサを内蔵)の交換を行った場合は、ヨーレートセンサ&Gセンサ0点取得を行う。
- スキッドコントロールコンピュータASSYの交換を行った場合は、ヨーレートセンサ&Gセンサ0点取得およびシステム情報の記憶作業を行う。
- システム情報は1度記憶されるとデータが消去されるまで取り直しは行われなため、システム情報がすでに記憶されている場合は、システム情報記憶消去後に記憶させる。
- 0点は1度記憶されるとデータが消去されるまで取り直しは行われなため、ヨーレートセンサを交換した場合は、0点消去後に0点取得を行う。
- 0点取得は必ず平坦な場所(勾配率1%以内)で行い、実施中は車両を揺らしたり、ドアの開け閉め等を行わない。また、アイドリング振動を避けるため、エンジンを始動しない。

a. ヨーレート&Gセンサの0点記憶消去およびシステム情報消去

■ 注意 ■

下記作業を行うと、ヨーレート&Gセンサの0点およびシステム情報が同時に消去される。

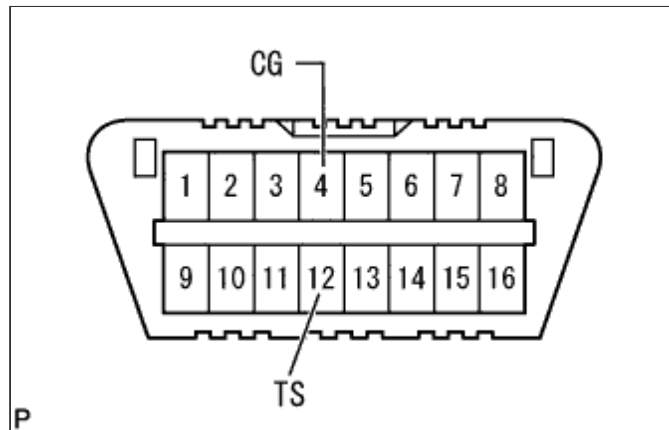
- IG OFFにして、シフトレバーをPポジションにする。
- IG ONにして、約3秒間待ち、インジケータランプのイニシャルチェックが終了することを確認する。
- SSTを使用して、DLC3の12(TS)←→4(CG)端子間を8秒間に4回以上短絡←→開放させる。

SST

09843-18040

■ 注意 ■

- 故障の原因となるため、コネクタの接続位置を絶対に間違えない。
- ヨーレート&Gセンサの0点およびシステム情報記憶消去を実行するとスキッドコントロールコンピュータ内に記憶されているシステム情報も消去される為C1203を検出し、ABSウォーニングランプ、スリップインジケータランプが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“VSCシステムチェック”が表示される。この状態で走行すると、Gセンサ0点未補正を記憶する。



b. ヨーレート&Gセンサの0点取得およびシステム情報記憶

■ 注意 ■

下記作業を行うと、ヨーレート&Gセンサの0点取得およびシステム情報記憶が同時に行われる。

i. IG OFFにして、シフトレバーをPポジションにする。

ii. SSTを使用して、DLC3の12(TS)←→4(CG)端子を短絡する。

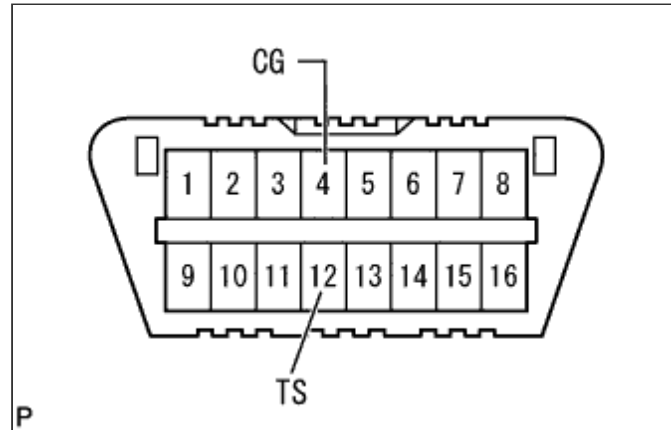
SST

09843-18040

■ 注意 ■

故障の原因となるため、コネクタの接続位置を絶対に間違えない。

iii. IG ONにする。



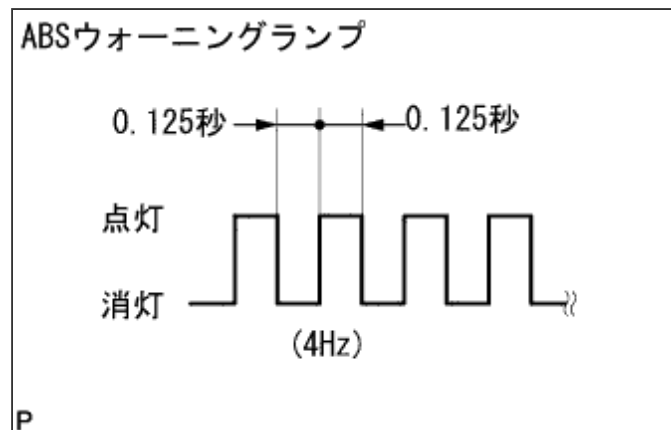
iv. 約2秒間車両静止状態を保ち、ABSウォーニングランプがテストモード表示を行い、マルチインフォメーションディスプレイに“VSCテストモード”が表示されることを確認する。

■ 注意 ■

0点未補正異常コードもしくはエンジンECU通信線異常コード(C1203)を記憶した場合、0点およびシステム情報記憶消去から再度実施する。

■ 参考 ■

- ヨーレート&Gセンサの0点取得後、メータ内の表示はテストモードに移行する。
- IG ON直後、ウォーニングランプのイニシャルチェックと同時にヨーレート&Gセンサの0点取得されるため、ABSウォーニングランプがテストモード表示を行い、マルチインフォメーションディスプレイに“VSCテストモード”が表示されていれば、0点取得は終了していると判断する。



v. IG OFFにして、DLC3の12(TS)←→4(CG)端子を開放する。

整備モード移行および解除(TaSCAN使用)

■ 注意 ■

- テストモード中に整備モード移行操作を行っても整備モードに移行しない。
- 整備モード中に、SST(TaSCAN)にてテストモードに移行すると、整備モードは解除される。

■ 参考 ■

“整備モード”に移行することにより、VSCおよびTRCの作動が禁止される。

a. 整備モード移行

■ 警告 ■

“整備モード”でドラムテスターを使用する場合は、安全作業のためロックチェーンで車両を固定する。

■ 注意 ■

- IG OFFにより“整備モード”を終了するため、点検中に一旦IG OFFにし、点検を引き続き行う場合は、“整備モード”移行操作を再度実施する。
- “整備モード”のままでの走行は絶対に行わない。

- i. IG OFFで、SST(TaSCAN)をDLC3に接続する。

SST
09991-70200

- ii. IG ONにして、SST(TaSCAN)の画面表示の“作業サポート”→“ABS・VSC・ECB”→“整備モード”の順に選択する。
- iii. SST(TaSCAN)の画面表示に従って、“整備モード”へ移行する。このとき、コンビネーションメータのスリップインジケータランプが点灯することを確認する。(“整備モード”成立の確認)

b. 整備モード解除

- i. IG OFFにして、“整備モード”を解除する。このとき、コンビネーションメータのスリップインジケータランプが消灯していることを確認する。(“整備モード”解除の確認)

整備モード移行および解除(TaSCAN未使用)

■ 注意 ■

テストモード中に整備モード移行操作を行っても整備モードに移行しない。

■ 参考 ■

“整備モード”に移行することにより、VSCおよびTRCの作動が禁止される。

a. 整備モード移行

■ 警告 ■

“整備モード”でドラムテスターを使用する場合は、安全作業のためロックチェーンで車両を固定する。

■ 注意 ■

- IG OFFにより“整備モード”を終了するため、点検中に一旦IG OFFにし、点検を引き続き行う場合は、“整備モード”移行操作を再度実施する。
- “整備モード”のままでの走行は絶対に行わない。
- エンジン始動からパーキングおよびブレーキペダルによる入力を30秒以内に行う。

- i. エンジン停止状態にする。

- ii. パーキングブレーキを解除する。

- iii. ブレーキペダルを踏みながらエンジンを始動し、ペダルを踏んだまま保持する。

- iv. パーキングブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを作用させる。

- v. パーキングブレーキが効いた状態で、ブレーキペダルを“離す→踏む”を2回以上繰り返し、ブレーキペダルを踏んだまま保持する。

- vi. ブレーキペダルを踏んだ状態で、パーキングブレーキペダルを操作して“解除(リリース)→作用(オン)”を2

回以上繰り返し、パーキングブレーキを作用させておく。

vii. 再度、パーキングブレーキが効いた状態で、ブレーキペダルを“離す→踏む”を2回以上繰り返す。

viii. コンビネーションメータのスリップインジケータランプが点灯することを確認する。(“整備モード”成立の確認)

b. 整備モード解除

- i.** IG OFFにして、“整備モード”を解除する。このとき、コンビネーションメータのスリップインジケータランプが消灯していることを確認する。(“整備モード”解除の確認)